

こんにちは 森林官です!

前 留萌南部森林管理署
増毛森林事務所
首席森林官
(増毛・幌糠担当区)
石井 誠



留萌南部森林管理署は、日本海に面した細長い留萌流域の南側に位置しています。

増毛森林事務所は、留萌流域の南部の増毛町と留萌市の西部に存する国有林を管理しています。

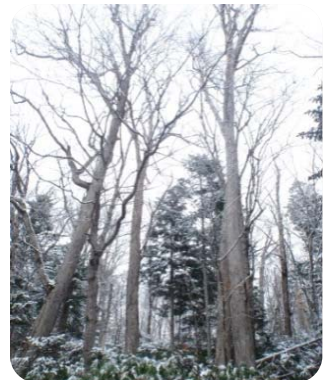
ここは、暑寒別岳の北東に位置し、日本海側気候特有の積雪量の多い地域です。

したがって、2m以上のチシマザサに覆われている所が多く、また風が強くと樹木の生育の障害となっているので施業には注意が必要です。

しかし、対馬海流(暖流)の比較的温暖な気候なため、そこを克服すれば樹木も良く成長すると考えています。

それは森林調査の時に、この森林の写真のような大径木をよく見かけるからで、ある程度成長すると確実に成林すると見込まれます。

こうした当地の環境を考えながら、次のような森づくりを行っています。



「にしんの森」の目標林
になっている森林

〇にしんの森再生プロジェクト

平成19年度より「にしん」をシンボルとして森林の再生を行うプロジェクトを実行しています。

ここは、天然更新不良、風倒、伐採等により疎林化・笹地化してしまった箇所に、トドマツ、ミズナラ、ヤチダモの植栽や地表処理(笹等の除去)により天然更新を促したりしています。

また地元の方(NPPO団体や漁協関係者等)に植栽、保育を協力してもらっています。

風が強く、5月下旬でも残雪があるような厳しい環境の中ですが、プロジェクト開始後、最初に植栽したミズナラは下刈りも終了してきています。

整備した面積は200ha以上(プロジェクト開始の平成19年度以降は130ha)になり、この取り組みを継続していくことにより、にしんが多くいた頃の森林の姿へと再生していきたいと考えています。



下刈りが終了した
ミズナラ植栽箇所

〇ふれあいの森

林道から留萌ダムに行けるように遊歩道を整備している箇所に「ふれあいの森」を設定し、ここで毎年、ライオンズクラブと小学生及び漁協婦人部の方等を対象に森林の必要性等学び、カミネッコンを作製してミズナラの森づくりに取り組んでいます。

〇コンテナ苗の植栽

平成24年度に人力機械地拵、平成25年度は大型機械地拵(レーキドーザ)、

平成26年度は誘導伐箇所での大型機械地拵(バックホウ)でコンテナ苗を植栽しており全ての箇所に普通苗も比較のため植栽し、毎年成長調査を行います。データを蓄積していきます。

また3年間の結果ですが、大型機械地拵箇所では表土が少なくなりがちのため、コンテナ苗は活着及び成長に有効と考えます。

最後に、今までの植栽は疎林部等の箇所がほとんどでしたが、今後、人工林の主伐の増加に伴い、更新面積が増加することから、森林官として、森林施業技術の向上に取り組んでいかなければと考えています。



カミネッコンを作製しミズナラの苗を植える小学生